

A-3 チェコ語における所有の与格の統語的性質—所有対象に焦点を当てて—

松山 芳瑛

(東京外国語大学大学院)

【要旨】所有の与格は、所有者が所有対象から独立した項として現れる External Possession (外部的所有構造、野町 2011) の一種で、専らヨーロッパ諸言語で観察される現象である (Haspelmath 1999)。一般的に、所有の与格と共起する所有対象には {前置詞句>直接目的語>自動詞主語>他動詞主語} という統語関係階層が見られ、共起可能な所有対象は自動詞主語までに限られるという (Haspelmath 1999)。同様の統語的制約はチェコ語¹にも見られるとされる (Fried 1999, 2009)。一方、チェコ語の所有対象に関して、名詞句・前置詞句の違いとその格を区別した階層関係、及び所有対象への統語的制約は十分に解明されていない。本研究は、I. 所有の与格と共起する所有対象の格と、II. 付随する前置詞の傾向をコーパス調査により明らかにすることで、統語関係階層を精緻化し、統語的制約に関する記述を修正する。

1. はじめに

チェコ語における所有の与格構造を簡略化し、例文と共に示したものが以下の図 1 である。以降、例文内の太字は所有者、下線は所有対象、斜字は所有対象にかかる前置詞を表す。

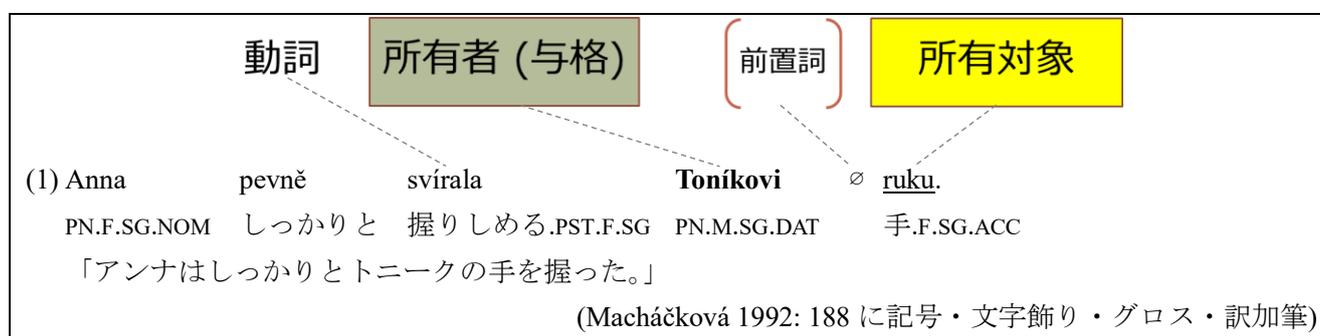


図 1: チェコ語における所有の与格構造 (Macháčková 1992 を基に作成)

チェコ語における所有の与格は、所有者に動詞が表す動作の影響が及ぶことを表す (Fried 2009)。文法書で、所有の与格は限定所有に置き換えが可能であると説明されることがある (Greppl and Karlík 1988 等)。しかし、身体部位が所有対象の場合に所有の与格ではなく限定所有を用いると、その部位が所有者から分断されているように感じられると言われている (Janda 1993)。Fried (1999, 2009) は、チェコ語において所有の与格と共起できる所有対象は他動詞目的語、斜格補語、自動詞主語に制限されており、他動詞主語としては出現できないと述べている。Dvořák (2017) は、所有対象は直接目的語、即ち対格名詞句として出現することが最も多いと述べている。また、Macháčková (1992) から、所有対象とは少なくとも 12 種類の前置詞が共起することが分かっている。

¹ 呼びかけにのみ用いられる呼格を除くと、主格・生格・与格・対格・前置格・造格の 6 つの格を有する。このうち主格は外来語由来のものを除き前置詞を伴わず (Rusínová and Nekula 2000: 342)、前置格は常に前置詞を要求する (金指 2010: 80)。

2. 先行研究

2.1. Haspelmath (1999)

Haspelmath (1999: 113) によると、ヨーロッパ諸言語における所有の与格には4つの階層 (表1) が認められる。Haspelmath (1999: 115) はこのうち統語関係階層に関して、所有対象は一般的に前置詞句、直接目的語、非対格主語として現れるが、非能格主語の所有対象は非常に稀で、他動詞主語の所有対象は観察されていないと述べている。

表1: 所有の与格に見られる4つの階層 (Haspelmath 1999: 113 に加筆、EP は External Possession)

<p>a. The Animacy Hierarchy (EP constructions are favored if the possessor is a) 1st/2nd p. pronoun > 3rd p. pronoun > proper name > other animate > inanimate</p> <p>b. The Situation Hierarchy (EP constructions are favored if the predicate is) patient-affecting > dynamic non-affecting > stative</p> <p>c. The Inalienability Hierarchy (EP constructions are favored if the possessum is a) body part > garment > other contextually unique item</p> <p>d. The Syntactic Relations Hierarchy (EP constructions are favored if the syntactic relation of the possessum is) PP > direct object > unaccusative subject > unergative subject > transitive subject</p>
--

なお、本発表では適宜、統語関係階層を {前置詞句>対格名詞句>自動詞主語>他動詞主語} と捉え直して議論を進めていく。

2.2. Macháčková (1992)

Macháčková (1992) は主に Ústav pro jazyk český (チェコ語研究所) の語彙アーカイブから集めたチェコ語の所有の与格構文を統語的に19種類に分類した。これらの構文における所有対象は、格や前置詞の観点から以下の表2のように分類できる。表中の○は該当する構文が存在すること、×は存在しないこと、/は文法上当該要素が存在し得ない (注1 参照) ことを表す。所有対象は主格名詞句、生格前置詞句、与格前置詞句、対格名詞句/前置詞句、前置格前置詞句、造格名詞句/前置詞句として現れることができ、少なくとも12種類の前置詞が共起することが分かる。

表2: チェコ語における所有対象の統語的分類 (Macháčková 1992: 187-191 を基に作成)

格	名詞句	前置詞句	前置詞と代表的な意味
主格	○	/	/
生格	×	○	do 「～の中へ」、z 「～の中から」
与格	×	○	k 「～の方へ」
対格	○	○	na 「～の上へ・表面へ」、o 「～を (接触)」、pod 「～の下へ」、přes 「～を越えて」、za 「～の後ろへ」
前置格	/	○	na 「～の上で・表面で」、po 「～中を」、v 「～の中で」
造格	○	○	pod 「～の下で」

2.3. Fried (1999, 2009)

Fried (1999, 2009) はチェコ語における所有の与格の例文を収集し、統語・意味・認知言語学等の観点からその特徴について分析を行った。統語的特徴に関して Fried は次のように述べている。①所有の与格は他動詞目的語 (前述の (1) を参照)、斜格補語 (2)、自動詞主語 (3) と共起するが、他動詞主語とは共起できない (4) (Fried 1999: 486, 2009: 230)。②所有の与格は受動態 (5) や③自動詞化した再帰形の動詞² (6) と共起する (Fried 1999: 475-476)。例文中の波線は受動態と再帰形の動詞を表す。

- (2) Spadlo **mu** do oka smítko.
落ちる.PST.N.SG M.3SG へ 目.N.SG.GEN 埃.N.SG.NOM
「彼の目の中に埃が落ちた。」 (Fried 1999: 476 に文字飾り・グロス加筆)
- (3) Před pěti lety **nám** zemřel otec.
前 5.INS 年.M.PL.INS 1PL.DAT 死ぬ.PST.M.SG 父.M.SG.NOM
「5年前に私たちの父が亡くなった。」 (Fried 2009: 218 に文字飾り・グロス加筆)
- (4) *Z nějakého [...] **důvodu** vlasy (主語) **jí** ho (目的語) nesmírně
から 何らかの.M.SG.GEN 理由.M.SG.GEN 髪.M.PL.NOM F.3SG.DAT M.3SG.ACC とても
vzrušovaly.
興奮させる.PST.M.PL
「何らかの理由で彼女の髪は彼をひどく興奮させた」 (Fried 2009: 230 に文字飾り・グロス加筆)
- (5) Zatím **mu** byly do němčiny přeloženy jen
今のところ M.3SG.DAT COP.PST.F.PL へ ドイツ語.F.SG.GEN 翻訳する.PASS.F.PL のみ
některé povídky.
いくつかの.F.PL.NOM 短編小説.F.PL.NOM
「今のところ彼の短編小説の一部のみがドイツ語に翻訳されている。」
(Fried 1999: 475 に文字飾り・グロス加筆)
- (6) Už **se** **ti** ta rána zacelila?
もう REF.ACC 2SG.DAT DEM.F.SG.NOM 傷.F.SG.NOM 治す.PST.F.SG
「君の傷はもう治った？」 (Fried 1999: 475 に文字飾り・グロス加筆)

3. 先行研究のまとめと問題点

以上の先行研究から、チェコ語における所有の与格は各種前置詞句、他動詞目的語、自動詞主語と共起する一方、他動詞主語とは共起できないとされる点で、Haspelmath (1999: 113) が提唱する統語関係階層とおおよそ一致していると言える。そして、少なくとも 12 種類の前置詞が所有対象と共起することが分かっている。一方、Dvořák (2017) はチェコ語の所有対象には対格名詞句が最も頻繁に見られると主張しており、Haspelmath (1999: 113) の主張と相反している。Haspelmath (1999: 115) も統語関係階層最上位における前置詞句の位置づけは通言語的とは考えにくいと疑問を呈していることを考慮すると、統語関係階層における前置詞句・斜格名詞句各種の位置づけを検証する必要がある。加えて、共起し得る前置詞に関しても考察の余地がある。そこで本研究は、I. 所有対象がとる格の傾向、II. 所有対象がとる

² 再帰形の動詞は、再帰代名詞が添えられた動詞を指す (金指 2010: 150-151)。zacelit 自体は「～を治す」を意味する他動詞であるが、再帰代名詞対格形 se が添えられると自動詞化し、「治る」という意味になる。

前置詞の傾向の2点に焦点を当てて、チェコ語における所有対象の統語的性質を、定量的により詳しく記述することを目指す。

4. 調査方法

調査にはチェコ語国立コーパス (Český národní korpus、以下 ČNK) を用い、適宜母語話者 (1967 年ブラハ生まれの D.R.氏) に意味を確認しながら例を収集する。以下、4.1.で調査に用いるコーパス、4.2.で検索方法について説明する。

4.1. 使用するコーパス

ČNK のサブコーパス Korpus SYN verze 8 (以下 SYN8) を用いる。ČNK は 1994 年に設立され、カレル大学哲学部の Ústav českého národního korpusu (チェコ語国立コーパス研究所) が中心となって運営しているコーパスである。2022 年 4 月時点で 45 億語以上を収録し、共時・通時・話し言葉・書き言葉コーパス等を有する。このうち SYN8 は 1990 年～2018 年の新聞、雑誌、文学作品等の文書を集めた書き言葉共時コーパスで、約 1000 万語から成る。

4.2. 検索方法

所有の与格が出現しやすい条件として、{人称代名詞与格+(間に 0-3 語)+身体部位} と検索し、各々の身体部位名詞の検索結果上位 50 例、合計 1000 例を収集する。詳細は以下の通りである。

① 所有者: 人称代名詞

有生性が高いという理由から所有者は人称代名詞に限定する。mně / mi³ (1SG)、tobě / ti (2SG)、jemu / mu (M.3SG)、jí (F.3SG)、nám (1PL)、vám (2PL)、jim (3PL) の 10 種類が対象となる。

② 所有対象: 身体部位⁴

譲渡不可能性が高いという理由から所有対象は身体部位に限定し、与格と共起しやすい身体部位名詞上位 20 位を選ぶ。SYN8 を用いた予備調査 (検索条件は③に基づき {人称代名詞与格+(間に 0-3 語)+身体部位⁵} とする) の結果、hlava 「頭」、ruka 「手」、oko 「目」、noha 「足」、tvář 「頬」、záda 「背中」、tělo 「体」、krk 「首、喉」、vlas 「髪の毛」、prst 「指」、obličej 「顔」、rameno 「肩」、ústa 「口」、ucho 「耳」、nos 「鼻」、koleno 「膝」、mozek 「脳」、jazyk 「舌」、čelo 「額」、žaludek 「胃」の 20 語を調査対象とする。

³ / の前は強調の際や前置詞と共に用いられる長形、後はそれ以外の場合に用いられ前接語として機能する短形である。ただし、近年 mně は前接語的に用いられるようになってきている。以上は Short (1993: 470) に基づく。

⁴ チェコ語において、所有の与格は動詞の必須項でない与格、即ち「自由与格」の一種として位置づけられている。他の自由与格には、例えば損や得をする参加者を表す「損得の与格」があるが、それと所有の与格との境界は必ずしも明確ではない (Grepel and Karlík 1988: 275、Macháčková 1992: 191 に基づく)。そこで、本研究は以下の点を前提として議論を進めていく。①譲渡不可能所有物が所有対象の場合、与格の必須度は高くなる。なぜなら、ものが所有対象の場合、所有者を表す与格を省略しても文が成り立つ場合が多いが、身体部位が所有対象の場合、与格を省略すると不自然になる (Macháčková 1992: 191) ためである。②Fried (2009: 219-221) は「チェコ語における所有の与格は、所有対象に及ぶ動作の影響が所有者にも及んでいることを表す。所有関係が緊密であるほど、所有対象だけでなく所有者にも影響が及ぶ可能性が高まるため、譲渡不可能所有物は圧倒的に限定所有ではなく所有の与格を好む」と述べている。③現実世界において身体部位への動作の影響がその所有者ではなく他の人物に及ぶ場面は想定しにくい。④上記の①②③に基づき、文脈から明らかに所有の与格ではないと判断できる場合を除き、基本的に、身体部位と共起する自由与格はその所有者を表していることを見出すことができる。

⁵ Macháčková (1992) の挙げる例文に見られる身体部位名称と、Short (1993: 526-527) のチェコ語基礎語彙一覧に挙げられている身体部位名称を検索する。

③ 語順: 所有者+所有対象

Křivan (2014) によると、チェコ語の所有の与格では所有者がテーマ、所有対象がレーマとなり、{所有者、所有対象}の語順をとる傾向が強いため、本研究でもこの語順に固定して検索する。その際、所有者と所有対象の間に前置詞や限定語などが入る場合も考慮し、0-3語の距離を設ける。

5. 調査結果と分析

5.1. 格と前置詞の調査結果

以下の表3・4は、身体部位20種類を合計した調査結果をまとめたものである。括弧内は出現数を、太字の前置詞はMacháčková (1992) が言及しておらず今回新たに所有対象名詞と共起することが判明したものであることを表す⁶。

表3: 名詞句と前置詞句を区別した場合の所有対象の出現頻度

前置詞句 (603) > 名詞句 (397)
生格前置詞句 (250) > 対格名詞句 (236) > 前置格前置詞句 (157) > 主格名詞句 (138) > 対格前置詞句 (128) > 造格前置詞句 (58) > 造格名詞句 (23) > 与格前置詞句 (10) > 生格名詞句 = 与格名詞句 (0)

表4: 各前置詞の出現頻度

支配する格	観察された前置詞と代表的な意味
生格	do 「～の中へ」 (146) > z 「～の中から」 (56) > kolem 「～の周りを」 (20) > u 「～の傍で」 (11) > okolo 「～の周りを」 (5) > podél 「～に沿って」 (4) > od 「～の傍から」 (3) > podle 「～に沿って」 (2) > =s 「～の表面から」 (2) > zpod 「～の下から」 (1)
与格	k 「～の方へ」 (10)
対格	na 「～の上へ・表面へ」 (93) > pod 「～の下へ」 (10) > přes 「～を越えて」 (7) > za 「～の後ろへ」 (7) > nad 「～の上へ」 (4) > po 「～まで (範囲)」 (4) > o 「～を (接触)」 (3)
前置格	v 「～の中で」 (70) > na 「～の上で・表面で」 (54) > po 「～中を」 (33)
造格	za 「～の後ろで」 (15) > nad 「～の上方で」 (13) > pod 「～の下で」 (12) > před 「～の前で」 (11) > mezi 「～の間で」 (7)

1) 本研究の調査結果の範囲内では、チェコ語における所有対象は{生格前置詞句 > 対格名詞句 > 前置格前置詞句 > 主格名詞句 > 対格前置詞句 > 造格前置詞句 > 造格名詞句 > 与格前置詞句}の順に現れやすいことが分かる。同時に{前置詞句 (603) > 対格名詞句 (236) > 主格 (138)} (表3の太字部分に該当)も成り立つことが分かり、Haspelmath (1999: 113) が提唱する統語的階層はチェコ語にも当てはまると言える。それ故、所有対象は対格名詞句で現れることが最も多いとしている Dvořák (2017) の記述よりも、Haspelmath (1999: 113) の記述の方がチェコ語の現状に合致していると考えられる。

ここで、ある種の名詞句、即ち生格・与格名詞句の所有対象が全く出現しないことが分かる。生格名詞句が見られない原因としては、多くの動詞において生格支配が対格支配に取って代わられつつある (Grepl and Karlík 1988: 273) ことが考えられる。与格名詞句が見られない原因としては、チェコ語の与格は、動詞が表す動作が直接影響を及ぼす対象ではなく、動作が向かう対象を表し、しばしば間接目的語として機能する (Grepl and Karlík 1988: 275) ためではないかと考えられる。Grepl and Karlík (1988: 275) は、与格は「誰かに/誰かから何かを与える/奪う」や「誰かに何かを言う/伝える/命令する」を表

⁶ 所有対象と共起する前置詞の体系的な記述は未だかつて行われておらず、正確には、Fried (1999, 2009) が挙げる例文において所有対象と共起する前置詞にはMacháčková (1992) が挙げていないもの (před 「～の前で」) も含まれている。

す動詞と共に用いられると述べている。

2) 所有対象と共起する前置詞は 26 種類観察された。Macháčková (1992) が示すより多くの前置詞が共起すること、中でも生格支配の前置詞の種類が最も豊富であることが分かった。

生格支配前置詞が多く見られる理由として、語源的な理由から生格支配前置詞の数自体が多いことが挙げられると考える。チェコ語の前置詞には、本来的で閉じた語類に属する一時的前置詞と、他の語から派生し開いた語類に属する二次的前置詞が存在するが、二次的前置詞の多くは名詞から派生するか、名詞を含んでおり、その名詞が限定語として生格を要求するため、生格を支配することが多い (Biskup 2017)。実際、今回抽出された生格支配前置詞のうち、*kolem*、*okolo*、*podél*、*podle* は名詞由来の二次的前置詞である (Rejzek 2015)。一方 *zpod* は、現代チェコ語の *z* と *pod* に相当する 2 つの前置詞が組み合わさってできたものであり、生格を要求するのは生格支配の *z* が *zpod* 全体の格支配を決定しているためである (Havránek 1973)。なお、チェコ語の二次的前置詞が開いた語類に属することを考慮すると、今回抽出しきれなかった前置詞も存在すると考えられる。

5.2. 他動詞主語として機能する所有対象について

調査の結果、先行研究では成立し得ないとされてきた、所有対象が他動詞主語として機能するパターンが 7 例見つかった。この構文では、所有者与格・主格の身体部位・何らかの対格目的語が同じ節内に共起する。発表者はこれらを 2 つのタイプに分類できると考え、便宜上タイプ I、II と呼ぶことにする。タイプ I (1 例 (7) のみが見つかった) では主格の身体部位のみが所有対象であり、対格目的語は与格で表される人物の所有物ではないと解釈できる。一方タイプ II では、主格の身体部位と対格目的語の両方が所有対象であると解釈できる。以下にタイプ I の例を 1 例、タイプの II の例を 2 例示す。

【タイプ I】

(7) Najednou *jí* *oči* (主語) *začaly* *sledovat* *něco* (目的語),

突然 F.3SG.DAT 目.F.PL.NOM し始める.PST.F.PL 追う.INF 何か.ACC

co *bylo* *už* *docela* *blízko* *za* *mnou*.

REL.NOM COP.PST.N.SG もう かなり 近くに の後ろで 1SG.INS

「突然彼女の目が、私のもうすぐ背後にある何かを追いかけ始めた。」

(Zbabělci)

【タイプ II】

(8) Jandová *se* *však* *upřeně* *dívá* *na* *Bělu*, *která* *svěsila*

PN.F.SG.NOM しかし じっと 見る.3SG.PRS を PN.F.SG.ACC REL.F.SG.NOM 垂らす.PST.F.SG

hlavu, *až* *jí* *dlouhé* *vlasý* (主語) *zakryly* *obličej* (目的語).

頭.F.SG.ACC CONJ F.3SG.DAT 長い.M.PL.NOM 髪の毛.M.PL.NOM 覆う.PST.M.PL 顔.M.SG.ACC

「しかしヤンドヴァーは、顔が長い髪の毛に覆われてしまうくらい頭を垂れているビェラをじっと見ている。」

(Metráček)

(9) Ne=byla *hezká*: *tvář* (目的語) *jí* *hyzdil*

NEG=COP.PST.F.SG 美しい.F.SG.NOM 顔.F.SG.ACC F.3SG.DAT 醜くする.PST.M.SG

příliš *protáhlý* *nos* (主語), (...)

あまりにも 長く伸びた.M.SG.NOM 鼻.M.SG.NOM

「彼女は美しくなかった。彼女の顔を長すぎる鼻が醜くしていた。」

(V kruhu prvním 1)

以上の通り、チェコ語における所有の与格は他動詞主語とも共起し得ることが示された。

6. 結論と今後の研究課題

本研究は、上記の条件下において、チェコ語の所有の与格と共起する所有対象には次の統語的性質があることを明らかにした。① {生格前置詞句>対格名詞句>前置格前置詞句>主格名詞句>対格前置詞句>造格前置詞句>造格名詞句>与格前置詞句} の順に出現しやすいこと。そしてこれは類型的な傾向とも合致していること。②少なくとも 26 種類の前置詞が共起し、中でも生格支配の前置詞の種類が最も豊富であること。③先行研究では成立し得ないとされてきた、他動詞主語として機能する所有対象が存在すること。そしてこれには I. 他動詞主語のみが所有対象であると解釈できるもの、II. 他動詞主語と目的語の両方が所有対象であると解釈できるものの 2 タイプが存在すること。以上の通り、本研究は先行研究と比較して、チェコ語における所有の与格の階層をより精緻化し、より広い所有の与格の使用範囲を記述することができた。

なお、所有者・所有対象を人称代名詞・身体部位以外にも広げた場合の所有の与格の特徴、所有者と所有対象の語順の傾向 (情報構造) 及び構文型については、今後の研究課題としたい。

【略号一覧】 ACC 対格 / AUX 補助動詞 / CONJ 接続詞 / COP コピュラ / DAT 与格 / DEM 指示詞 / F 女性 / GEN 生格 / INF 不定形 / INS 造格 / M 男性 / N 中性 / NEG 否定 / NOM 主格 / PASS 受動分詞 / PL 複数 / PN 固有名詞 / PRS 現在 / PST 過去 / REF 再帰代名詞 / REL 関係詞 / SG 単数 / 1 1 人称 / 2 2 人称 / 3 3 人称

【参考文献】

- 金指久美子 (2010) 『中級チェコ語文法』東京: 白水社。
野町素己 (2011) 『スラヴ諸語における所有文: その構造と派生的構文に関する比較・類型論的研究』博士論文, 東京大学。
Biskup, Petr (2017) PŘEDLOŽKA. In: Petr Karlík, Marek Nekula, Jana Pleskalová (eds.) *CzechEncy - Nový encyklopedický slovník češtiny*. <https://www.czechency.org/slovník/PŘEDLOŽKA> [2021 年 12 月 2 日アクセス].
Dvořák, Věra (2017) DATIV. In: Petr Karlík, Marek Nekula, Jana Pleskalová (eds.) *CzechEncy - Nový encyklopedický slovník češtiny*. <https://www.czechency.org/slovník/DATIV> [2021 年 11 月 3 日アクセス].
Fried, Mirjam (1999) From interest to ownership: a constructional view of external possessors. In: Doris L. Payne and Immanuel Barshi (eds.) *External Possession*, Typological studies in language 39, 437-504. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
Fried, Mirjam (2009) Plain vs. situated possession in Czech: A constructional account. In: William B. McGregor (ed.) *The expression of possession*, 213-248. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
Grepl, Miroslav and Petr Karlík (1988) *Skladba spisovné češtiny*. Praha: Státní pedagogické nakladatelství.
Haspelmath, Martin (1999) External possession in a European areal perspective. In: Doris L. Payne and Immanuel Barshi (eds.) *External possession*, Typological studies in language 39, 109-135. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
Janda, Laura A. (1993) *A geography of case semantics: the Czech dative and Russian instrumental*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
Křivan, Jan (2014) The role of information structure in Czech possessive constructions. In: Joseph Emonds and Markéta Janebová (eds.) *Language use and linguistic structure: Proceedings of the Olomouc Linguistics Colloquium 2013*, 3. Olomouc: Palacký University.
Macháčková, Eva (1992) Je posesivní dativ volný, nebo vázaný? *Slovo a slovesnost*. 53 (3): 185-192.
Rusínová, Zdenka and Marek Nekula (2000) Morfologie. In: Petr Karlík, Marek Nekula, Zdenka Rusínová (eds.) *Příruční mluvnice češtiny*. Second edition, 227-358. Praha: Nakladatelství lidové noviny.
Short, David (1993) Czech. In: Bernard Comrie and Greville G. Corbett (eds.) *The Slavonic Languages*, 455-532. New York: Routledge.

【辞書】

- Havránek, Bohuslav (ed.) (1973) *Etymologický slovník slovanských jazyků. Slova gramatická a zájmena 1: Předložky; koncové partikule*. Praha: Academia.
Rejzek, Jiří (2015) *Český etymologický slovník češtiny*. Third edition. Praha: LEDA.

【調査資料】

- Český národní korpus. Ústav Českého národního korpusu FF UK, Praha. <https://www.korpus.cz/> [2022 年 5 月 2 日アクセス].